



～感謝の言葉～



虹こども園を巣立っていきます卒園児 17 名の保護者を代表いたしまして、
僣越ながら、感謝の言葉を述べさせていただきます。

本日は心あたたまる卒園式を開いていただき、園長先生をはじめ、お忙しいなかご準備してくださった先生方、そしてご参列下さいましたご来賓の皆さま、本当にありがとうございました。

虹こども園は「あたたかい昼間のおうち」をモットーにされていますが、まさに、園での 6 年間は、子供たちが安心して笑顔で過ごせる かけがえのない場所でした。そして、わたしたち働く親にとっては、最強のサポーターであり、パートナーとして、子育てを大きく支えてくださいました。

入園当時の私の悩みは、娘が離乳食を食べてくれないことでした。生後 11 ヶ月での入園当初、連絡帳には、「食欲なし。りんご、ひと口食べました」。復帰直後の職場で、給食の心配ばかりしていました。ところが、1 ヶ月ほど経った頃、連絡帳を見て、泣きました。「今日は初めて給食を完食しました」。

「集団生活の効果ってすごいなあ！！」と、のんきに感動していましたが、よくお話を聞いてみると、実は、先生がマンツーマンで、1 時間かけて、娘のペースに合わせて食べさせてくださったとのこと…。また、泣きました。

それからというもの、食べる楽しみを知った娘は、ほとんど好き嫌いもなく、給食をお代わりすることも…。いまでは平均体重をオーバーする程に成長しました。



また、日々の園での遊びや四季折々のイベントを通して、私たち親に代わって、日本の伝統文化や食べ物大切さなどを教えていただいたことにも、感謝の気持ちでいっぱいです。

自分たちで育てたお野菜を使ったクッキングのおかげで、それまで苦手だったお野菜が食べられるようになったお友達も、たくさんおられるようです。

そして、運動会や発表会、作品展などでいつも感じるのが、「虹こども園の園児は、ひとりひとりが主役！」であるということです。運動会で、フジ組全員が心をひとつに、堂々とフラフープをまわす姿に、「もし私がゼロ歳からやり直せるなら、私も虹こども園に入りたい！」と、心から思いました。

先生方は愛情深く、辛抱強く、常にこどもたちの個性や感性を尊重して、それぞれの成長に寄り添った保育をしてくださいました。今の子ども達の成長は、先生方の温かいご指導の賜物だと、心から感謝しています。

素敵な先生方・お友達との出逢い、そして沢山のかけがえのない経験・思い出を胸に旅立つ園児たちは、本当に幸せだと思います。

最後になりますが、虹こども園の益々のご発展を祈念申し上げますと共に、園長先生を始めとするご関係者の皆さま、そして本日ご参列くださいました皆さまのご健康とご活躍をお祈りし、お礼の言葉とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

平成 30 年 3 月 17 日 卒園児保護者代表

橘 亜沙子

